

ヴェネツィアにおける聖マルコ伝説とその図像の展開に関する研究

大阪芸術大学 教養課程 教授 石井元章

前年度に調査した「正義」は、ヴェネツィアにおける共和国理念の体现である。その正義に共和国自体と聖母の図像を重ねることで、本来プラトンが「国家」で挙げた、必須の美德の最上位としての「正義」が、ヴェネツィア共和国そのものであると同時に、聖母と同一視されるとする論理が構築された。

これに対して、「聖マルコ」はヴァチカンに対抗するヴェネツィア独自の聖人であり、共和国の聖性の拠り所である。事実、共和国の政治的中心で、唯一 *piazza* という名を持つサン・マルコ広場に、その政治体制の中核である総督宮と隣接して建設されたサン・マルコ聖堂に対して、教皇庁ヴァチカンの代理としてのサン・ピエトロ聖堂は、同広場から遠く離れた国立造船所（アルセナーレ）奥のカステッロ地区に配置されている。828/9年に、マラモッコ島の行政官であったブオーノとトルチェッロ島出身の商人ルスティコによって聖マルコの遺体がアレクサンドリアから奉遷されると、それまで共和国の首席守護聖人であった聖テオドルスが聖マルコに取って代われ、サン・テオドロ聖堂自体も、次第に広場の端に追いやられて遂には消え去ることになる。

この現象と並行して、独自の聖マルコ伝が形成されていく。10世紀中葉にシメオン・ロゴテテス（通称メタフラステス）が著した『メノロギオン（聖人伝集）』に収められた「使徒聖マルコの殉教」でマルコ伝の原型が形作られ、東方教会を中心に普及する。そして、それは西方で成立した著名な『黄金伝説』へと引き継がれていき、これが西欧の図像生成の基礎となる。ところが、ヴェネツィア共和国はそれらの伝承と異なる新しい伝説を生み出す。例えば、聖マルコが聖ペテロの命に従ってアレクサンドリアに赴く時、全く関係のない、そしてまだ存在しなかったヴェネツィアの岸辺に立ち寄り、その葦原に向かって「私は将来ここと縁を持つであろう」と言ったという真しやかな伝説の創造がこれに当たる。それと同時に、ヴェネツィアは表象する図像をも編み出した。この議論はヴェネツィア共和国という国が自らを伝説化し、称揚する一つの過程と捉えることができ、それはヴェネツィア共和国の本質と分かちがたく結びついている。すなわち、聖マルコ伝を明らかにすることは、ヴェネツィアの独自性を解き明かすことに通じるのである。

この議論に関する研究の伝統は長いが、アントニオ・マンノは『福音書記者聖マルコ：ヴェネツィアの教会に由来する美術作品』（Antonio Manno, *San*

Marco Evangelista: Opere d'arte dalle chiese di Venezia, Curia Patriarcale, Venezia 1995) で、聖人の図像と伝説との関係を明確に論じた。また、デイヴィッド・ローザンドは『ヴェネツィアの伝説：国家の図像化』（David Rosand, *Myths of Venice: The Figuration of a State*, University of North Carolina Press, 2001) で聖母図像との関係についても詳述した。日本では京谷啓徳が『西洋美術の歴史 4 ルネサンス I』中央公論新社、東京 2016, pp.296-302 でヴェネツィア神話に触れている。

申請者は、2007年ヴェネツィア、チーニ財団美術史研究所主催の国際シンポジウムで聖マルコ伝の特に奇跡の場面の図像を扱って発表を行ない、論考として刊行した（「啓示としての洗礼 トウツリオ・ロンバルド作《ヴェネツィア総督ジョヴァンニ・モチエニーゴ記念碑》に関する一考察」『西洋美術研究』13（2007.7）, pp.229-248; “Battesimo come Illuminazione - Qualche riflessione sul monumento del doge Giovanni Mocenigo di Tullio Lombardo”, a cura di Matteo Ceriana, *Tullio Lombardo - scultore e architetto nella Venezia del Rinascimento Atti del Convegno di studi, Venezia, Fondazione Giorgio Cini, 4-6 aprile 2006*, Cierre, Verona 2007.10, pp. 99-115）。

近年の注目すべき成果としては、ガイド・ティグラー著『ヴェネツィア、サン・マルコ聖堂中央扉：13世紀の浮彫の図像的様式的側面』（Guido Tigler, *Il portale maggiore di San Marco a Venezia: aspetti iconografici e stilistici dei rilievi duecenteschi*, Istituto Veneto di Scienze, Lettere ed Arti, Venezia 1995）とラッファエレ・パイエール『ヴェネツィア、サン・マルコ聖堂床幾何学文の象徴と神秘』（Raffaele Paier, *Simboli e misteri nelle geometrie del Pavimento della Basilica di San Marco a Venezia: svelati alla luce della Dottrina e della Tradizione della Chiesa: un contributo alla lettura dei sectili marciani*, Grafiche Veneziane, Venezia 2011）が挙げられる。

サン・マルコ聖堂内や聖マルコ大同信会館の図像における変化は、先行研究が多く扱っているものの、この聖人伝の研究は大きな広がりを見せるため、今後さらなる研究が必要である。